

Q2 心筋炎を早く見つけるポイントは？

心不全とは？

心不全とは「心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気」と定義されています(日本循環器学会、日本心不全学会)。

心筋炎も心不全を引き起こす原因疾患の1つですので、早く見つけて、適切に対処することが重要です。

前述のとおり、心筋の細胞は再生しません。残った心筋細胞にかかる負担を軽くし、心臓を長持ちさせるための治療と、減塩、禁煙、適度な運動習慣などの心臓にやさしい生活習慣などによって、心不全の進行を食い止めることが大切です。



多くの場合、心筋炎を発症すると悪寒や発熱、頭痛、筋肉痛、倦怠感、吐き気・嘔吐、下痢といった風邪や胃腸炎などの症状が先行して起こります。これらの症状だけにとどまることも少なくありませんが、急性心筋炎では、不整脈や胸痛、心不全などの重い症状が現れるようになります。なかには、急激に悪化して心不全や失神などのショック症状を起こす場合(劇症型心筋炎)もあります。

心筋炎は年齢や性別を問わず、健康な人にも突然発症することがあるため、息切れや強い倦怠感など、風邪症状がふだんとは違うと感じたときは早めに医療機関を受診することが、早期発見のポイントです。

心筋炎を診断するには、まず聴診で心臓の音に異常があるかを確認し、胸部エックス線検査や心電図検査、心臓超音波検査(心エコー検査)などを行います。また、診断の補助として、心臓が損傷を受けたときに増加する物質の濃度を測定します(心筋障害マーカー検査)。確定診断のために、心臓カテーテルで心筋細胞を少量採取し、病理学的検査をすることもあります。

A 息切れなど風邪症状がいつもと違う場合は要注意！

教えて
ドクター!



知っておきたい
健康相談室

突然死のおそれもある

心筋炎

心筋炎とは、心臓の筋肉(心筋)に炎症が起こる病気です。新型コロナウイルス感染症の合併症として、また新型コロナのワクチン接種の副反応として、病名を知った方が多いのではないのでしょうか。命を落とすこともある病気ですが、正しい知識をもつことが心筋炎から命を守ることに繋がります。



監修 酒井良彦
さかい・よしひこ
獨協医科大学埼玉医療センター
循環器内科特任教授
1983年3月東京慈恵会医科大学卒業。日本赤十字医療センターに勤務後、1985年より獨協医科大学越谷病院(現・獨協医科大学埼玉医療センター)循環器内科勤務。2019年より現職。日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会専門医として、幅広く循環器臨床を実践している。

Q3 心筋炎の治療法について教えてください。

心筋炎は予防できる？

心筋炎は多くの場合、ウイルス感染によって起こるため、新型コロナウイルス感染症対策の徹底で培った予防法が有効です。「コロナ慣れ」で気持ちがゆるんでいる人は、いま一度、気を引き締めましょう。

屋内や人との距離がとれない場合はマスクを着用する

手洗いをこまめに行う

部屋の換気を定期的に行う

過労や過度なストレスを避け、十分な睡眠をとる

栄養バランスのよい食事を規則正しく

禁煙をする

インフルエンザや新型コロナのワクチンを接種する



心筋炎は命にかかわる場合もあるため、軽症であっても入院し、経過観察や必要に応じて治療を行います。軽症であれば比較的短い入院で済みますが、炎症が強い場合は数カ月の入院が必要になることもあります。

心筋炎によって心不全が起きている場合は、心臓の負担を軽減する薬、体の余分な水分を減らしてむくみを取る利尿薬、心臓のポンプ機能を高める強心薬などを用いて治療をします。

ショックなどをともない命の危険のある劇症型心筋炎を起こしている患者さんに対しては、近年、一時的に強力な心肺補助

のリスクが高くなるのです。心筋炎はさまざまな原因によって起こります。最も多い原因はウイルスで、一般的に風邪の原因となるコクサッキーB群ウイルスに感染することが多いとされています。そのほか、インフルエンザウイルス、C型肝炎ウイルス、新型コロナウイルス(左の欄参照)などが原因となることもあります。また、細菌や真菌、寄生虫、特定の薬剤、アルコール、関節リウマチなどの自己免疫疾患などが原因となることもあります。なかには原因が特定できない場合もあります。

A 軽症の場合でも入院が必要原因や状態に応じた治療を行う

Q1 心筋炎とはどんな病気ですか？

A 心筋に炎症が起こることにより心臓の機能が低下する病気

心臓は筋肉で囲まれていて、収縮と拡張をくり返しながら拍動し続けます。このポンプ作用によって、心臓は全身に血液を循環させています。心筋炎とは、心筋に何らかの原因によって炎症が起こり、心臓のポンプ機能が低下する病気です。

心筋炎になっても「風邪かな？」と思っているうちに治ってしまいうちにも多いのですが、突然死を引き起こすこともあります。心筋の細胞は再生しないため、炎症の範囲が広がって重症化すると、心不全(Q2の左の欄参照)や危険な不整脈など

新型コロナと心筋炎

新型コロナのワクチン接種後、ごくまれですが、心筋炎や心膜炎になったという報告があります。このワクチンとは、ファイザー社やモデルナ社のmRNAワクチンで、とくに10代、20代の男性に多い傾向があります。接種後4日程度の間は胸痛、動悸、息切れ、むくみなどの症状がみられた場合は、速やかに医療機関を受診してください。

ただ、軽症の場合が多く、心筋炎や心膜炎のリスクよりも、ワクチン接種のメリットのほうが大きいと考えられています。

(厚生労働省「新型コロナワクチンQ&A」より)

*心膜炎：心臓は二重の心膜に包まれています。この2枚の心膜でつくられる袋を心嚢といい、リンパ液が入っています。心膜炎は心膜や心嚢に炎症が起きる病気で、胸痛が現れるとともに、リンパ液が過剰に増えて心嚢が膨らみ、心臓のポンプ機能が悪くなります。

